

W207c **Nano-JASMINE 衛星の現状について**

小林行泰、郷田直輝、矢野太平、丹羽佳人（国立天文台）、山田良透（京大理）、志村勇樹（東大理）、中須賀真一、稲守孝哉、（東大工）、酒匂信匡（信州大）

我が国初の位置天文衛星 Nano-JASMINE は口径 5cm の金属鏡の望遠鏡に完全空乏型 CCD を搭載し、 $1\mu\text{m}$ までの近赤外光を用いた位置天文観測を実現する。超小型ながら、高度な 3 軸制御機能を備え、2 次元素子の採用によって、HIPPARCOS 衛星に匹敵する精度が得られることが期待されている。Nano-JASMINE 衛星は約 2 年をかけて Z_w バンド ($0.6\mu\text{m} - 1.05\mu\text{m}$) を用いて、10 等級より明るい星を対象に全天にわたる位置天文観測を行い、100 万個の天体の精密位置測定に加えて、近傍の 7.5 等級より明るい星約 8000 個については年周視差の測定により、距離測定が可能となる予定である。予定より、打ち上げが大幅に遅れてしまっているが、Nano-JASMINE 衛星本体は、すでにフライトモデルが組みあがり、各種性能評価試験も終了して、打ち上げを待つばかりとなっている。

講演では、nano-JASMINE 衛星プロジェクトについての現状の報告に加えて、超小型衛星の打ち上げ機会についての問題点について、また GAIA も含めて大きな問題となっている、CCD の宇宙放射線と星像位置決めの問題についてふれる予定である。